

絆づくり防災講演会

釜石市の防災教育から考える“地域福祉”

～大津波から命を守った児童・生徒の主体的行動に学ぶ～

これまで、栃木県は比較的災害の少ない土地と言われてきましたが、東日本大震災では宇都宮市などの5市町で震度6強の揺れを観測し甚大な被害をもたらすなど、今後の防災対策が改めて問われるとともに、平常時からの地域福祉の重要性が再認識されています。こうした中、岩手県釜石市では平成16年から児童・生徒を中心に防災教育を行い、その教えを受けた子どもたちは津波発生後、主体的に避難行動を実践し、学校の管理下にあった約3,000名全員の無事が確認され、『釜石の奇跡』として紹介されました。

そこで、児童・生徒を中心に実践されてきた釜石市の防災教育から、平常時における地域住民相互の「支えあい」「助けあい」を基本とした「絆づくり(地域福祉)」について考えるとともに、一人ひとりの防災意識の高揚を図ることを目的に講演会を開催します。

日時

平成24年3月24日(土)

開場 12:30 開演/13:00 終演/16:00

会場

とちぎ健康の森 講堂

宇都宮市駒生町 3337-1

内容

【第1部】活動報告会(13:00~13:45)

■コーディネーター 宇都宮市社会福祉協議会職員

■報告者 災害ボランティア活動参加者

【第2部】講演(14:00~16:00)

■講師 片田 敏孝 氏

〔群馬大学広域首都圏防災研究センター長
群馬大学大学院工学研究科教授〕

【その他】東日本大震災パネル展示、防災グッズの展示

参加費

無料

定員

先着350名

その他

手話通訳・要約筆記あり



講師 片田 敏孝 氏

～プロフィール～

昭和35年 岐阜県生まれ。

専門は災害社会工学。

災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育、避難誘導策のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国各地で展開している。特に、釜石市においては、平成16年から児童・生徒を中心とした津波防災教育に取り組んでおり、地域の災害文化としての災いをやり過ごす知恵や災害に立ち向かう主体的姿勢の定着を図ってきた。

また、内閣府中央防災会議をはじめ、国・外郭団体・地方自治体の多数の委員会、審議会に携わり、研究成果を紹介しながら防災行政の推進にあたっている。主な学会活動として、日本災害情報学会理事、日本自然災害学会理事がある。

お申込み(3月1日から受付開始)

氏名・連絡先(複数名でお申込みの場合は、代表者の氏名・連絡先・参加人数)をお伝えください。(電話・FAX・メール可)

宇都宮市社会福祉協議会ボランティアセンター

電話：028-636-1285 FAX：028-634-2870

Mail：miya-vc@ap.wakwak.com

〒320-0806 宇都宮市中央1-1-15(総合福祉センター8階)

共催 栃木県社会福祉協議会・宇都宮市社会福祉協議会

後援 宇都宮市・宇都宮市教育委員会・宇都宮市民憲章推進協議会・宇都宮市PTA連合会・宇都宮市子ども会連合会
宇都宮市青少年団体連絡協議会・宇都宮市青少年育成市民会議・宇都宮市消防団・宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉の
まちづくり推進協議会・栃木県教育委員会・下野新聞社・朝日新聞宇都宮総局・読売新聞宇都宮支局・毎日新聞社宇都宮
支局・産経新聞社宇都宮支局・NHK宇都宮放送局・とちぎテレビ・宇都宮ケーブルテレビ・エフエム栃木・栃木放送